



パパットケリーは3方向のヘリを膨らませて使う。洗髪した水はマットと一緒に袋（左下）に流れる（千葉県流山市で）

洗髪・入浴 サポート

洗髪や入浴をサポートする介護用品が充実しつつある。介護する側の負担を軽減し、介護の質も確保できる。介護を受ける高齢者の事故を防止することも、自分でできることを増やし自立を促すことにもつながる。

(福島憲佑)

福祉用品の開発着々

千葉県流山市の介護老人保健施設「ハートケア流山」で、スタッフの女性が、入所者の江尻良枝さん(92)をベッドに寝かせたまま頭髪を洗っていた。頭の下にはボリエチレン製のマットが敷かれている。準備も含めて30分ほどで洗い終えた。江尻さんは「気持ちいいですね」と笑顔を見せた。

このマットは、千葉市の福祉用品メーカー「ワノケア」が開発した「パパット

ケリー」。介護を受ける人が横になつたまま、布団をぬらさず洗髪できる。マットの3方向のへりに空気を入れて膨らませると、土手になつて水がベッドに漏れない。洗つた水はマットと一体になつてさらさらがつた袋に流れる。使い捨てタイプで片付けも簡単。今月から1枚600円程度で一般にも販売している。

■ 利用者自立促進も
者がインフルエンザなどにかかると、感染拡大を防ぐため感染者以外も移動を制限され、入浴できないこともあります。介護福祉士の雨沢慎悟さんは「浴室でなくとも髪を洗え、入所者に喜ばれています」と話す。

東京都豊島区の特別養護老人ホーム「池袋敬心苑」では感染症対策のほか、最期が近く入浴できない入所者の洗髪にも使っている。担当者は「本人にも家族にも

（態勢の不足）が最も多かつた。介護にあたるスタッフの負担軽減が急務となつてゐる。

い。浴槽のへりに取り付け
る手すりは、グリップが握
りやすく転倒を防げる。浴
槽台は浴槽に沈めて椅子な
どとして使い、立ち上がり
やすい。いずれも介護保険
を使えば、少ない自己負担
で購入できる。

在宅介護での入浴を補助する用品は、入浴時の安全性を高め、介護をする家族の負担を和らげるとともに、介護される高齢者の自立を促す効果もある。

福祉用具を販売・レンタルする「ヤマシタ」は様々な入浴補助用品を扱う。例えば、入浴用の椅子は背もたれや肘おきのあるタイプもあり、体を安定させやす

やすい。いざれも介護保険を使えば、少ない自己負担で購入できる。

千葉大講師の飯野理恵さんは「こうした用品を使って介護を受ける人が一人で風呂に入ることには、体力の維持にもなり、自立した生活を送れることが自信になる。利用にあたっては、ケアマネジャーとよく相談して」と話している。

20代女性会社員。仕事ばかりしている夫についての相談です。

する」といふことに困っています。
一応任意参加ではあるのですが、
すが、若手なので断わ

夫は教育委員会に勤めています。平日は夜遅くまで仕事をし、土日も出勤することが多々あります。

仕事漬け
働き方改革や男性の子育て参加を推進すべき教育委員会なのに、旧態依然とした伝統が



ヤマシタが扱う入浴用
の椅子上と手すり下
(いざわむ提供写真)

